佐野美術館 展覧会情報

2019年 9月7日(土)～10月27日(日)

光ミュージアム所蔵

美を競う

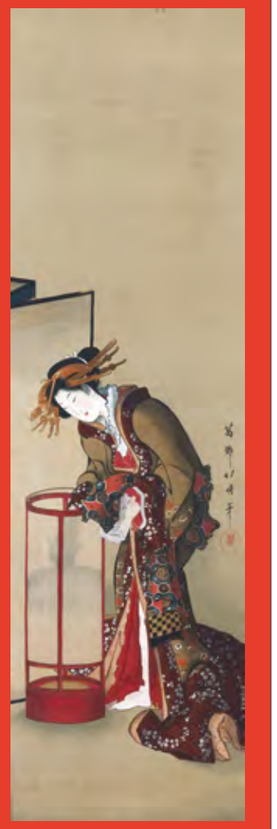
肉筆浮世絵の世界

肉筆浮世絵とは、浮世絵師が自筆で絹や紙に直接描いた絵画です。多色摺木版画のように量産することができない貴重な一点もので、絵師それぞれの技を見ることができます。繊細な筆づかいや鮮やかな色彩も見どころの一つです。

今回は、第1章「肉筆浮世絵の展開」、第2章「百花繚乱・多彩な作品群」、第3章「上方と地方で描かれた肉筆浮世絵の展開」の3章構成で、江戸中期(17世紀)から明治時代(19世紀)までの代表的な絵師たちの作品を紹介します。葛飾北斎、歌川広重ら江戸で人気の浮世絵師をはじめ、京都や大坂で活躍した絵師、肉筆浮世絵を得意とした絵師など、絵師たちが細部にまでこだわった肉筆浮世絵を是非ご堪能ください。
今回が初めての大規模公開となる、光ミュージアムの肉筆浮世絵コレクション。質量ともに国内有数を誇る約420点もの名品から、厳選した111点をご覧いただきます。

一部展示替えがあります。是非何度も足をお運びください。
前期　9月7日(土)～10月2日(水)
後期　10月4日(金)～10月27日(日)

宮川長春≪立ち美人≫
正徳～享保年間(1711～36)


葛飾北明≪行燈美人≫
文化～文政年間(1804～30)
掲載作品2点・光ミュージアム蔵

ミューズクラブ会員特典!!
音声ガイド♪

ミューズクラブ会員であれば、会期中音声ガイドを何度でも無料貸出。
解説を聞きながら作品をじっくりご覧ください。
※受付で会員証の提示をお願いいたします。

今後の展覧会スケジュール

2019年 11月9日(土) ～ 12月22日(日)　ヒグチユウコ展 CIRCUS
2020年 1月 7日(火) ～ 2月16日(日)　名刀への道
2月22日(土) ～ 4月 5日(日)　人形の美　語りかけるひとがた
―彫刻家 前島秀章・久代夫妻寄贈の人形コレクション

ミューズクラブ会員　募集中

●正会員：1万円
●ゴールド会員：2万円
●特別会員：10万円

ミューズクラブでは会員を随時募集しています。年間パスポートの発行やショップでの買物1割引、会員限定イベントの開催など様々な特典があります。
詳しくはミューズクラブ事務局
(TEL055-975-7278)までお問合せください。

新規入会者 (2019年4月1日～)

ゴールド会員　杉澤正人、杉山千恵、林さくらこ
正　会　員　石川ゆう、尾朝和子、川井茉奈未、古長谷稔、齋藤敬義、鈴木忠昭、冨岡緒素、中田隼矢、林恵美、福室次義広、松村梨加、水田悟

※敬称略、50音順

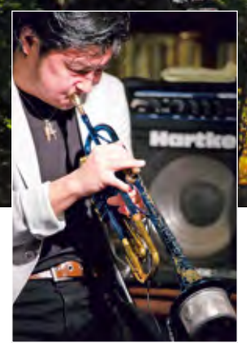
Number 24 2019.09
佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報　ミューズ交歓
2019年9月号／第24号
発　行　日／2019年9月1日　編集・発行／佐野美術館賛助会ミューズクラブ
〒411-0838　静岡県三島市中田町1-43　TEL:055-975-7278　FAX:055-973-1790　ホームページ：www.sanobi.or.jp

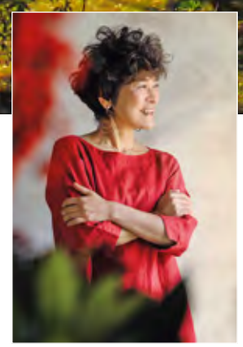
佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報

ミューズ交歓

佐野美術館と皆さまをつなぐ

Number 24 2019.09
Muse Club Magazine
SANO ART MUSEUM





2019年度下半期　活動予定

イベントスケジュール

2019年度下半期に開催されるイベントをご紹介します。お気軽にご参加下さい。

十三夜の宴（じゅうさんやのうたげ）

日　付：2019年10月11日(金)
時　間：17:00受付・開場／17:30開宴
会　費：会員3,500円／一般5,000円
定　員：約100名(要申込・先着順)
会　場：佐野美術館庭園
(雨天の場合は佐野美術館1階ロビー)
出　演：五十嵐一生(いがらし いっせい)(トランペット)
石塚まみ(ピアノ＆ボーカル)

十三夜の月と音楽を愉しむ演奏会「十三夜の宴」。国の登録有形文化財である隆泉苑の庭園で、月を愛でながら、美しい調べを聴いていただく屋外コンサートです。毎年幅広いジャンルの音楽をお届けしてきましたが、今年はトランペット奏者の五十嵐一生氏とピアノ＆ボーカルの石塚まみ氏を迎えます。月明かりの下、迫力ある演奏を是非お愉しみください。
演奏後はお弁当やバイキング形式の温かいお食事をご用意しております。

佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報
ミューズ交歓
佐野美術館と皆さまをつなぐ

2019年度下半期 活動予定

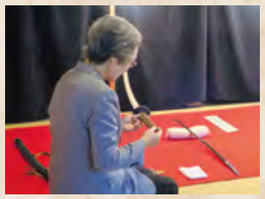
イベントスケジュール

2019年度下半期に開催されるイベントをご紹介します。
お気軽にご参加下さい。

館蔵品特別鑑賞講座
～日本刀編～

日　　付：2020年1～2月中のいずれか1日
時　　間：14:00～16:00
会　　費：1,500円（会員）※お茶・お菓子つき
定　　員：20名（要申込・先着順）
会　　場：佐野美術館庭園内「隆泉苑」
※会員のお連れ様であれば、一般の方もお申込みいただけます。

渡邉理事長の解説とともに、佐野美術館所蔵の日本刀を実際に手に取って鑑賞する「館蔵品特別鑑賞講座」。展示ケースを隔てることなく間近で刃文や地鉄を鑑賞し、日本刀の重さを体感できます。日本刀の魅力を感じることができる貴重な体験です。毎年行っている人気の講座ですが、毎回異なる日本刀を出品しているので、何度ご参加いただいても新しい感動が味わえます。鑑賞の仕方や心構えも理事長が説明するので、初めての方も安心してご鑑賞いただけます。



※各イベントの募集は開催日の約2ヶ月前から行います。
※会員の皆さまは随時お届けしておりますイベントチラシをご確認の上お申込み下さい。
※日程・内容は変更する場合がございます。

2019年度上半期 活動報告

イベントレポート

2019年度上半期は、3つのイベントが開催されました。

会員のつどい

日　　付：2019年4月21日（日）
時　　間：15:00～18:00
参加人数：39名

懇親会は会員の皆さまの交流の場です。軽食をいただきながら話もはずみました。落語家の春風亭一蔵さんも参加してくださいました。

ミューズクラブの総会にあたる「会員のつどい」が、美術館講堂で開かれました。2018年度決算・事業報告、2019年度予算・事業計画等の報告があり、満場一致で承認されました。令和元年度も興味深い展示やイベントが計画されており、きっと皆様にお楽しみいただけるでしょう。

さて、この日のメインは落語と懇親会。落語は春風亭一蔵さんで、演目の一つ目は『替わり目』。酔った亭主が女房に面と向かってはさんざんに悪態をつくが、買い物に行かせたあとしみじみと「オレには勿体ないくらいいい女房」と独り言を言ったところ、「なんだ、まだいたのか」という噺。二つ目は左甚五郎（ひだりじんごろう）が登場する『竹の水仙』でした。一蔵さんの体全体を使った熱演に会場の皆さんは聞きほれていました。後日、一蔵さんのブログには「暖かいお客様でめっちゃ反応もよく、楽しくつとめさせて頂きました。懇親会も本当に楽しく、三島は佐野美術館、最高に好きになりました」と書かれておりました。

（ミューズクラブ運営委員　梅原 秀宣）

館蔵品特別鑑賞講座
～ 掛け軸編 ～

日　　付：2019年5月25日（土）
時　　間：14:00～15:20
参加人数：13名

今回は白隠禅師の禅画4点と、墨跡1点の計5点が出品された。河内えり子学芸員の説明はとても丁寧でわかり易く、誠実なお人柄がにじみ出ていた。

中でも印象に残ったものは白隠最晩年の作とされる≪蓮池観音図≫である。観音は慈悲の眼で衆生を見守って下さる。その福壽は海のように広く深い。（「慈眼視衆生　福壽海無量」）と賛に書かれているとのこと。外側を丹念に墨で黒く塗りつぶしているのは暗い世を照らす観音様の姿を浮かび上がらせる効果があるように思えた。全体が淡いうす墨の線で描かれていて、観音様の慈悲深さに包まれているようだった。作家岡本かの子は「白隠の絵はその気魄の圧倒的なこと、意思を表現せんとする生々しいくらいの情熱において、いわゆる飄逸洒脱な普通の禅画とは明らかにちがう（概略）」と書いているが、この観音図はそれとまさに対極にあるような気がした。艱難辛苦の末にたどり着いた最晩年の白隠の心境の現れなのか。

外は真夏のような暑さであったが、熱心に画に見入り、学芸員さんに色々と質問をしている参加者を見ていると、ここ隆泉苑書院の間には全く違う空気と時間が流れているように感じられた。　（ミューズクラブ副運営委員長　山田 勝造）

佐野美術館の収蔵品を、学芸員の解説付きで鑑賞できるのは会員の特権です。
作品だけでなく、日本画の青色顔料のもととなるラピスラズリなどの貴重な鉱物も説明してくれました。

芸術鑑賞
日帰りバス旅行

日　　付：2019年7月18日（木）
時　　間：7:00～20:00
参加人数：39名

世界遺産に登録された国立西洋美術館前で記念撮影

お昼は
「特盛今半すき焼き御膳」

国立劇場の中に、新たに小道具体験コーナーができました。

梅雨の明けないどんよりとした空模様でしたが、参加者全員元気に三島を出発しました。いつもバスの後部座席に故宮内先生が座っておられたことを思い出し、あのお元気なお声が聞こえなくなったことを寂しく思いました。バスは世界遺産の国立西洋美術館に着き、松方幸次郎氏の収集した「松方コレクション」を拝観しました。

数年前に佐野美術館主催のフランス旅行に参加した私は懐かしい思い出がよみがえり、特にモネの作品の数々に感動をおぼえました。モネの自宅・庭園等を散策したことを思い出しました。

戦前の時代に日本人に西洋の美術を知らしめなくてはならないと崇高な志を持ち収集した美術品の数々、戦争中は他国に疎開させて守った作品の数々…今、令和の時代に我々の目に触れることが出来るのは、先人の思い、守る努力をしたおかげだと思います。あらためて美術館の収蔵品をいかに守っていくか考えさせられました。

お昼は「今半」のすき焼き御膳をいただき、身も心もいっぱいになり、それから歌舞伎を見物しました。いつみても衣装の豪華さに圧倒されます。伝統を守るということの大切さを考えさせられた一日でした。

（ミューズクラブ運営委員　大庭 治美）